

【園の教育目標】
『豊かな心でいきいきと遊ぶ子』
・心身ともに元気な子
・友達と仲良く遊ぶ子
・考えて取り組む子

【令和6年度の園評価より】
・友達や集団を意識した遊び、協力して進めていくことができるような遊びを取り入れていく。
・友達の良いところを見付けたり褒めたりしていけるような場面を増やし、子ども同士でも気づいていける目を育てていく。
・いつ起こるか分からない災害だが、実際に起きた時にはどうしたらよいか絵本や紙芝居を通して分かりやすく伝えていく。
また、大地震の想定をし更に避難方法を見直していく。

4段階評価				○保育者	☆関係者	●課題	
観 点	短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要			
保育・幼児教育の充実	健康な体づくり	【心身ともに元気な子】 ・規則正しい生活リズムを身に付ける。 ・体を十分に動かして遊ぶ。	3.5	3.8	○季節や行事を考慮して体操に取り組み、週1回の元気っこタイムが定着している。 ○苦手だと思ふとあきらめてしまう子が多いが、サーキットやチャレンジタイムの時間を作ることでやってみようとする姿が見られるようになってきた。 ○リズム遊びを毎日継続して行うことで、体力の向上や運動面の発達に繋がっている。 ☆週1回の実施を定着させ、チャレンジタイムなど変化をもたせていることがやる気を引き出し、園児の体力作りに繋がっている。 ☆リズム遊びを毎日実施することで、体力づくりの習慣が自然に身に付けられるようになるので、とてもよい。心と体がすっきりする感覚を覚えられると素晴らしいのでぜひ、継続してほしい。 ☆生活リズムカードの取組では、親子共々励みになってよい。就寝時間が改善され、自立していく様子が見られるのでよい。 ●生活リズムは、各家庭との連携が鍵となる。生活リズムが乱れがちな子がいるので、生活リズムカードを活用した啓発に加え、毎日の送迎時に保護者と積極的に取組についてコミュニケーションをとり、伝えていく。		
	社会的発達	【友達と仲良く遊ぶ子】 ・保育者や友達と関わって遊び、友達の良いところを認める。	3.4	3.8	○トラブルの際は、保育者は、子どもの表情やしぐさから気持ちを読み取り、相手の気持ちを伝えながら仲立ちすることを心がけた。子どもは、自分とは違う思いがあることに気づき、少しずつ自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりできるようになってきた。 ☆年齢が上がるにつれてルールのある遊び、チームで対抗する遊びに発展していき遊びの中で、譲り合いや折り合いをつける事を学べる環境がある。一つの楽しみを見つけた時、それをみんなで共有しながら楽しむ姿を見ることができた。 ●今後も引き続き、子どものよさ、頑張ったところを具体的にクラス全体で認め合う時間をもちながら、折り合いをつける気持ちをもたせていく必要がある。		
	精神的発達	【考えて取り組む子】 ・自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いを楽しむ。	3.1	3.7	○子どもの声に耳を傾け、子どもたちが自分で選べるようにコーナーを工夫したことで、興味をもって主体的に遊ぶ姿に繋がった。 ○大縄跳び、リレーなどみんなで一つのことに取り組む経験を通して、クラスとしての協力体制ができてきた。 ○既存の玩具だけでなく、手作り玩具や段ボール、新聞紙など身近な素材を取り入れたことで、自分たちで遊びを考えられるようになった。 ☆保小連携で共通して指導する「言葉による伝えあい」と「協同性」について、意図的に楽しみながら学ぶ機会を仕組むことができていくことがよく分かった。楽しむために自己選択できることと仲間と一緒にできる活動の重要性を認識して進められていることがよい。 ☆作品展では、身近にある様々な物や廃材の中から、いろいろな色や形を組み合わせで作られていた。みんなで一緒に話し合いながら、それぞれのアイデアをもとに創り上げる姿があり、想像力を育むことができていると感じる。 ●図鑑で調べる環境を準備するだけでなく、保育者や友達と一緒に調べるようにする。		
子育て支援の充実	地域保護者との連携	○園の活動内容を家庭や地域に情報発信し、開かれた園づくりに努めている。	3.5	3.7	○クラスだよりやドキュメンテーション、連絡帳を通して子どもの成長を伝えることができた。キッズビューアアプリの活用がスムーズになった。 ○保小連携では、子ども同士の交流だけでなく、情報交流も行うことができた。 ○来園者や園外保育にて地域の方に保育者が積極的に挨拶することで、子どもたちが自ら挨拶するようになってきた。 ☆キッズビューアの活用は、まさにDX化による成果である。文字だけでなく写真もすぐに配信できることや保護者との双方向のやり取りが簡単にできる利点をうまく利用できている。 ☆一人一人の保護者の話を聞くことで保護者の安心に繋がる。保育者や周りの大人が手本を見せることで子どもたちが変わってきた事はよい結果である。 ☆保小連携は、積極的に行われている。保小連携で一人一人の子どもの姿を話題にできることが小学校としても大いなる成果だと感じる。 ●早期、延長保育を利用している保護者と毎日顔を合わせられないという課題がある。 ●外国籍の家庭は、掲示だけでは伝わらないため、個別の声掛けが必要である。 ●今後も保育園の願いや取組を丁寧に全保護者に伝えていく。		
保育・幼児教育を向上させる基盤の	危機管理	○災害時の避難の仕方を知り、自らの命を守ろうとする態度を身に付けている。	3.5	3.8	○命を守る訓練では、繰り返し「おはしも」の意味を知らせたり、イラストや紙芝居を用いて分かりやすく伝えたりすることで、子どもたちは、放送や保育者の声を聞いて素早く避難することができた。 ○終礼に出られない職員も終礼ノートにてヒヤリハットの共有ができていた。 ☆子どもたちの「命を守る意識」を育てるために、イラストや紙芝居等を活用して分かりやすく伝えたり、保育者が言動を統一して関わったりする子どもの年齢に合わせた取り組みができていく。 ☆命を守る訓練の実施、登降園時の注意事項の配信等で、園児・保護者と共に危機管理がなされている。 ☆長時間保育のため、職員が一堂に会して打ち合わせることが難しい状況の中、終礼ノートの活用やヒヤリハットの共有で子どもが安全に過ごせる環境整備が徹底できている。 ●門の鍵に手が届き、自分で開けてしまう子もいるので、親子で手をつないで登降園するよう園だよりや配信で積極的に声掛けしていく。 ●園内の危険箇所について保育者間で共有しているが、衝動的な行動によりけりが繋がることもあるため、保育者間で安全面の再確認が必要である。 ●子どもたちの命を最優先にいつ起きるか分からない有事に備え、日頃から安全管理に努めていく必要がある。 ●危険箇所は、複数の目で常に見るにより危険要因を炙り出すことが大切である。今後も保護者と共に多角的に危険箇所と要因を確認していく。		

【次年度に向けて】 ・9時までの登園を習慣化するよう保護者に呼び掛け、毎日の様子を送迎時に保護者と確かめながら基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。

- ・全職員が、保小連携で共通して指導する「言葉による伝えあい」「協同性」を意識した保育を行う。
- ・毎月、全職員で園内の危険箇所について多角的に確認し合うことで、けがの防止に繋げる。
- ・クラス保育だけでなく、異年齢交流やオープン保育を行い、エピソードを伝えあうことで全職員で全園児の育ち、支援の在り方を共有する。